

医療分野国際科学技術共同研究開発推進事業
戦略的国際共同研究プログラム(SICORP)
日・英国共同研究（感染症） 事後評価結果

研究開発課題名	クリミア-コンゴ出血熱ウイルスのゲノム多様性がもたらすウイルス学的意義の解明
研究開発代表者	森田 公一
代表機関	長崎大学

○評価委員会コメント

クリミア・コンゴ出血熱ウイルス（CCHFV）の研究は重要である。致死率が高いが患者は少なく、研究者も少ないため、日英の共同研究にふさわしい。しかしながら、英国側研究者と連携し、ゲノム配列の決定は行ったものの、当初の目的であるゲノムの多様性や変異等においては具体的な成果が見られなかった。ゲノムの配列決定や複製系の構築は、基礎的な手法であり、それだけでは多様性や変異に関する新しい知見を得ることは難しい。ウイルスのゲノム型や変異塩基の分布、ヒトへの馴化に関わる変異の同定など、より詳細な解析が必要である。今後、CCHFV 宿主マダニや症例検体の解析をさらに進めることで、目的が達成できる可能性があり、継続した共同研究が望ましい。CCHFV は BSL-4 で扱わなければならない病原体のため、この研究期間に作成した BSL-3 あるいは P3 以下で扱える様々な代用系が今後の研究に役立つと考えられる。これらの技術的な成果は医療分野の進展に貢献するものと言える。

英国との連携に関しての具体的な内容や若手研究者の参画について、報告書に明示されていない。